

本店レク 議事メモ

日時：平成 23 年 4 月 10 日 (日) 11:05~12:30

場所：東京電力本店 1 階 101 A B 会議室

先方：記者約 35 名 (カメラ 6 台)

当方：原子力設備管理部 [REDACTED]

建設部 [REDACTED]

広報部 [REDACTED]

配付資料

- ・ 東北地方太平洋沖地震による影響などについて (4月10日 午前9時現在)
- ・ 福島第一原子力発電所 1~3号機プラント状況 他
- ・ 福島第一原子力発電所モニタリングカーによる計測状況 他
- ・ 遠隔操作什器による瓦礫撤去作業

質疑：

Q. 2号機の立坑から復水器ホットウェルへの移送はいつから実施するのか。

A. 本日午後予定している。

Q. タービン建屋地下のたまり水はどのように処理するのか。

A. まずは立坑のたまり水をホットウェルや集中廃棄物処理施設へ移送し、その状況次第でタービン建屋地下のたまり水についても検討する。

Q. プロセス集建屋の残水 200 トンはいつ頃排水が終了するのか。

A. 本日中に終了する見通し。

Q. 室素の注入状況は。

A. 本日 6:00 現在で 2,100m³、195kPa、28m³/h

Q. 1, 3号機のタービン建屋たまり水の核種分析状況は。

A. とりまとめ次第、お知らせが遅くなつた経緯も含めて回答させていただく。

Q. 5, 6号機のタービン地下の水位は下がっているのか。

A. 減つていることが確認されているが、具体的に何cm下がったか等についてはとりまとめ中。

Q. 5, 6号機の地下水位を把握するための計測棒のようなものは取り付けていないのか。

A. 確認させていただく。

Q. 2号機トレチ水位の上昇と取水ピットの止水は関連しているのか。

A. 運動している可能性は考えられる。

Q. 2号機立坑たまり水のしょりについて、まずはホットウェルへの移送を実施する理由は。

A. トレチの水位が 100 センチを切っていることから実施する。また、タービン建屋とトレチは繋がっているのではと考えている。

Q. 瓦礫撤去のための試運転はいつから実施するのか。

A. システム1は4/6から、今回のシステム2は本日から実施していく予定。

Q. 瓦礫撤去のシステム1、2の違いは。

A. システム2は中継車を近くに置いて1~4号機を網羅して作業できる。システム1は操作車と機材が一緒になってスポット的に細かな場所まで処理できる。

Q. 自衛隊による戦車とはどのように違うのか。

A. 戦車は現在使用していない。

Q. コンテナはどのような材質でできているのか。

A. 鋼鉄製

Q. システム1ではどの付近で作業したのか。

A. 事務本館近くにある情報棟周りの撤去作業をした。

Q. 地震から焼く1ヶ月たってからの瓦礫処理は遅すぎないか。

A. 瓦礫を恥に寄せる作業は以前より実施してきた。どかした瓦礫を出すという作業を今回実施している。

Q. システム2はいつから実施するのか。

A. 本日。

Q. どこの企業に発注したのか。

A. 大成建設、清水建設、鹿島建設のJV。

Q. 各資機材はどちらの企業のものか。

A. 混合である。

Q. システム1、2については過去に実績はあるのか。

A. 当該システムとして新燃岳や霊仙普賢岳の噴火の際、活躍した実績がある。

Q. 当該システムはいつ構内に搬入されたのか。

A. 1F構内へは4/5に搬入された。

Q. 瓦礫が高い線量を出しているのはなぜか。

A. 瓦礫そのものも含めて、データの蓄積を今後行っていく。

Q. どういうプロセスで瓦礫に放射性物質が付着したのか。

A. 後から付着したのか、元々放射化された物が飛び散ったのか、現時点ではわからない。

Q. 建屋の部材は本来放射化されている物なのか。

A. 今回検出されている数百ミリ μ sV/hは有意に高い線量になっていると考えている。

Q. SFPなどから核燃料が損傷してそれが飛び散ったという可能性はあるのか。

A. 核燃料に起因する可能性は高いと考えているが詳細はわからない。

Q. CAMSのデータが一部計器不良で空白になっているが、生データはどのような値なのか。

A. 大幅に考えられないような上昇、下降を繰り返すような結果となっており、計器不良と考えている。

Q. 上昇、下降を急激に繰り返すような変動が出ているということは炉内で異常が発生しているという可能性もあるのではないか。

A. 確認させていただく。

Q. 空白部になっているCAMSの生データを表記いただきたい。その上で、計器表であることを補記する形にしていただきたい。

A. 検討させていただく。

Q. 瓦礫に付着している線量を分かっている部分だけでも公開していただけないか。

A. 周囲の線量を計測しているが、瓦礫に何が付着していか等の分析は行っていない。

Q. 2号機圧力容器の温度データが測定不能だが、温度が分からない理由は。

A. 計器不良によるものと思われる。

Q. 2号機圧力容器の底が抜けていないと判断できる根拠は。

A. 判断材料は非常に乏しい状態が続いていると考えている。炉水が安定していること、RPVの温度は計測できていないが、吸水ノズルの温度は高めになっている。

Q. よく分からぬと言ふことか。

A. 2号機からの放射性濃度が高い水が出ているが、それ以上のデータを持ち合わせていない。現状、1号機吸水ノズルの温度については但し書きを伏して記載させていただいているが、それに則って、2号機のデータも示していければと思う。

Q. システム2はの運用開始は今日の午後といふことでいいか。

A. 調整も含めて、今日午後から開始する。

Q. 遠隔操作によるシステムは、いつ3社のJVへ発注をしたのか、時系列を教えてほしい。

A. 確認させていただく。

Q. パラメーターの状況から、2号機圧力容器の底が抜けていると見ているのか、見ていないのか、わからないのか。

A. 原子炉からのある程度の漏洩があることを想定しているが、パラメーター上で大きな変化はみられていない。

Q. 安定しているという理由は、安定しているデータだけを見ているだけであつて、ネガティブ要素を見ていないのではないか。

A. 確認できているデータを見れば、安定している。

Q. どの時点から、圧力容器の底が抜けている点について、わからぬといふ状況になったのか。

A. 炉心周りの状況はある時点から大きく変わっているとは思っていない。

Q. 圧力容器の状況を変わっていると考えた時点はいつなのか。

A. 圧力用機の底の状況が変わっているとは思っていない。限られたパラメータを元に状況を推定している状態については、従前より変わっていない。断定的なことを言いづらい状況であると言ふことである。

Q. 炉に由来するものか、プールに入っている燃料が飛び散って瓦礫に付着したと認識しているのか。

A. 発電所構内においても核分裂生成物に起因すると考えられる放射性物質が確認されており、瓦礫についても同様ではないかと考えている。

Q. 瓦礫が放射線源になると言ふことは、建屋にあるときに放射線が付着したのか。

A. ご指摘の可能性も否定できないが、具体的にどうなったのかは確認できていない。

Q. 建屋にあるときに放射性物質が付着したと言うことは、建屋の中の燃料等が破損しなければ付着しないと思うが、瓦礫の核種分析を行うことで、判明することもあるかと思うが、どうか。

A. 確実に起因する元素が検出される可能性はあると思うが、それがどのような経緯で付着したかの特定は難しいと思う。

Q. 水素爆発の際に付着したのではないか。

A. その可能性は否定できない。

Q. 川崎市消防局の人は、東電社員に現場で 1000mSv の部分があることを注意されたと発言していたが、現場に目印を付けるなどはしているのか。

A. 放射線管理員がきちんと指導しているのではないか。瓦礫については、よく分からない部分が多く、3, 4号機の爆発でそのときの瓦礫が多く、2, 3号機の間の3号機側と、3号機の山側に数 100mSv/h の高い線量が出ている部分がある。

瓦礫であろうと考えているが、必然性が出てくれば、調査をしなければならないと考えているが、まずは作業に支障となる瓦礫を撤去することを考えている。水の中の燃料が出てくるとは思えないが、ゼロではないと思うし、配管の中の水あわのようなものが高い線量を含むこともあることから、必ずしも燃料であるとは限らない。いずれにしても水の中にあるものが出てくるかどうかはわからないが、瓦礫ではない可能性は否定できない。

Q. 一時集積所の周辺にモニターをつけて線量を計測するのか。

A. 線量計を持参して周辺線量を計測する。

Q. これまで注水量と漏水水量がイコールだと考えて実施しているのか。暫定でも漏水水量を発表すべきではないのか。

A. 2号機についてはトレーンチの水位が上がっており、3号機については4号機へ排水をしたところ上昇が確認されているが、原因が明確に分かっていない。2号機についてはとりまとめているところ。

Q. 原子炉から漏水していることを前提とした対応が必要なのではないか。

A. 2号機は 7m³/h で注水しているが、それ以上の排水能力をもったもので排水することを考えている。また、早急にタービン建屋の水を落として、どこから水が来ているかを確認のうえ止水することを想定していることから、水位は十分下げられると考えている。

Q. 計算をすればトレーンチから漏れていることも分かるのではないか。

A. 復水器のホットウェルには 3,000 トンが準備されており、廃棄物建屋には

30,000 トンの容量があるためから、2号機の排水は全て排出することが可能である。

Q. 2号の復水器への移送するためのポンプ容量は。

A. 10~20m³/h のポンプ 4台を設置する。具体的な移送計画については決定次第、お知らせさせていただく。

Q. CAMS のデータから燃料破損率が求まるのか。

A. 格納容器内に設置されたガンマ線の線量率を燃料破損の有無について見るものだが、このデータを活用して、燃料破損率を換算することは出来るが、データ自体もばらついており、整地を求めるることは難しく、ばらつきのあるものだとご認識いただきたい。

Q. 瓦礫があるところの線量が高く、底の瓦礫を撤去することがねらいなのか。

A. 全体の瓦礫を撤去するが、優先的に線量の高い瓦礫の撤去を考えており、撤去をすることで作業効率が上がり、総じて被ばくの低減にもつながると考えている。

Q. 同様のシステムが他国から提案があったのではないか。

A. 各国から様々な提案をいただいており、単体の重機の提案はあったが、作業に必要なく見合せが重要で、システム化された提案はなかった。

Q. 5, 6号機のサブドレンの水位が上がった原因はその後判明したか。

A. 水位上昇の原因は、組上げを止めていたので、地下水の流れ込みによる水位上昇によるものと考えている。

Q. では、また海洋放出するのか。

A. 建物の止水処理や水のくみ出しを実施しているので、今後は可能な限り排出しないようにして参りたい。

Q. サブドレン周辺の線量についてはどうか。

A. 直接の線量はないと思うが、確認させていただく。

Q.これまでロボット単体の提案はあったと言っていたが、いつ、どこから何社からの提案があったのか。

A. 確認させていただく。

Q.ストロンチウムについて大気中や土壤での計測状況について教えていただきたい。

A. 年に1回実施する環境サンプリングの一環として発電所に限らず採取されてい

るデータはあると思うが、現在手元にデータはない。

Q. 事故発生以降のデータはないのか。

A. 事故発生以降の計測については整理させていただきたい。

Q. 操作車の画面は外部で確認できないのか。

A. 操作車ないでしきか見ることが出来ない。

Q. 原子炉への注水の実績について教えてほしい。

A. 4月9日 16時の時点で、淡水と海水の合計で、1号機：6,700t、2号機：10,500t、3号機：10,200tを注水した。

Q. 格納容器の容量はどうか。

A. 2,3号機がほぼ同じ、D/Wが3,770m³、S/Cは3,160m³、水は2,980m³である。

以 上

情報共有**本店会見****9枚****記者会見概要**

日時：平成23年4月10日（日）18:40～20:00

場所：東京電力本館3階ABC会議室

先方：記者約55名（カメラ10台）

当方：原子力・立地本部 [REDACTED]

原子力設備管理部 [REDACTED]

原子力運営管理部 [REDACTED]

本店広報部 [REDACTED]

配付資料：

- ・福島第一原子力発電所の状況
- ・福島第一原子力発電所敷地内における空気中の放射性物質の核種分析の結果について（第十六報）
- ・福島第一原子力発電所2号機取水口付近からの放射性物質を含む液体の海への流出について（続報6）
- ・福島第一原子力発電所付近の海水からの放射性物質の検出について（第十八報）
- ・福島第一原子力発電所モニタリングカーによる計測状況 他
- ・福島第一原子力発電所1～3号機プラント状況 他
- ・福島第一原子力発電所集中廃棄物処理建屋（集中環境施設）概略配置図
- ・T-Hawk写真提供

質疑応答：

Q. 今回配付された資料には、集中廃棄物処理施設からの海洋放出量は、合計すると8,500tとなる記載だが、午前中のレクでは8,820t、残りが200tと言う説明があったが、なぜ違うのか。

A. 資料の記載が悪く申し訳ない。午前中に説明した内容と変わらない。プロセス主建屋6,300t、残水が800tでトータルが6,600t、雑個体廃棄物減容処理建屋でトータル1,900t、その他の施設でトータル570tあることは申し上げたが、その点については変更はない。現在最終確認をしているところ、今晩中、もしくは明日の朝までに確定値をお示しできると思う。

Q. 集中廃棄物処理施設への溜まり水の移送には、水漏れ調査後という説明があったが、調査には何日かかるか。

A. 目視のみであれば数日で完了すると思うが、高レベルの排水を入れること

を鑑みれば、もう少し慎重に点検を行うと思うが、現時点で具体的に何日とは申し上げられず、移送の早期実施が望ましいのだが、溜める以上は丁寧に点検しなければならない。

- Q. 2号機タービン建屋地下排水は、集中廃棄物処理施設へ直送するのか。
A. まずは、溜まり水を立坑から復水器に移送することを考えているが、容量的に収まりきらないので、集中廃棄物処理施設へ現在設置しているホース類を用いて移送することになる。
- Q. 本日、具合が悪くなった作業員の方の累積線量は。また、作業を実施していた現場の線量が2～5mSv/hと聞いていたが、具体的にどの場所なのか。
A. 累積線量は約16mSv。作業エリアは2号機と3号機の間あたりで、2号機立坑の近くで、ホースの接続作業を行っていた。
- Q. なぜ4/9に高純度窒素ガスに切り替えたのか。
A. 水素爆発を防ぐために格納容器内の不活性化を目的に、より純度の高いチッソを注入した方が効果が高く、準備が整ったことから、当初98%の窒素ガスを注入していたが99.92～99.95%程度の高純度チッソを注入した。
- Q. 遠隔操作による瓦礫除去作業が始まったと聞いたが、本日の除去量は。また、何日ぐらい作業を行い、撤去する量はどの程度となると考えているのか。
A. システム2を9時から開始して、16時で終了。コンテナ2箱分の瓦礫を除去した。今後については、遠隔操作のため、その日の状況によって作業量の増減は出てくると思われることから具体的なことは申し上げられない。
- Q. 集中廃棄物処理施設の移送完了の目途は。
A. 現時点では、放水終了間近と思うが、正確な終了時刻や放出量については別途お伝えさせてください。
- Q. トレーンチ立て坑の水を復水器に移送する作業は、いつ始まるか。
A. 現在、準備を進めており、具体的な時期は申し上げられない。
- Q. 無人ヘリを飛ばす目的は。
A. 従来は、航空写真等で1～4号機で建物の破損状況を確認していたが、より詳細な状況を把握することを期待している。詳細な建屋の確認などや、使用済み燃料プールの水面の確認までできればと思っている。

Q. トレンチやタービン建屋に 1000mSv 超の線量のたまり水があったが、その後は 1000mSv を超える数値を計測したのか。

A. ホットスポット計測器を確保しているが、計測しに行くだけかなりの線量を浴びこととなるため、改めて計測をしていない。何らかの作業がある場合には、その都度計測し、作業環境を確認した上で作業を実施していく。

Q. その中で、作業員の安全をどのように確保するのか。

A. 図面等を用いて効率的な作業の計画を立案する。チームごとに時間を区切って交代で作業を実施するなどしてまいりたい。

Q. 最近、体調を崩す作業員が出てきているが、夏を迎えるにあたり、熱中症対策等はどうするつもりか。

A. ご指摘の通り、熱中症対策はきちんと実施する必要があると考えている。従前は水分補給や適度の休憩等を行っていたが、全面マスクを被っていることから水分補給等は難しいことから、クールベストの着用や、作業時間の管理すること、始業前に体調確認等を行っていく。

Q. 2号機の移送の関係だが、開始に時間がかかるっている理由は何か。

A. 移送する際には入念なホース類の漏洩確認等の点検を行う必要があり、昨日は、本日午後開始と申し上げたが、作業開始が送れている。

Q. 本日深夜にでも実施する可能性はあるか。

A. 詳細はわかりかねるが、深夜に作業開始することはあまりないのではないか。

Q. T-hawk には赤外線カメラを積んでいるのか。

A. 赤外線カメラを積んでおり、温度分布の状況もわかるのではないか。

Q. どの部分の温度に興味があるのか。

A. 現在もっとも関心があるのは、使用済み燃料プールの温度である。

Q. これまでに搬出したコンテナの量は。

A. システム1は4月6、7日で3箱、システム2は本日2箱を運び出しており、合計5箱となる。

Q. 明日で事故から1ヶ月になるが、現段階での安定的な冷却への見通し、実現するまでの課題は。どういった対策やアイデアがあるのか。

A. 安定的な冷却には、現在の注水の状況から循環型の冷却にすることが必要であると考えている。現在はたまり水等があるが、これを排出するとともに、原子炉建屋から漏れ出している場所の止水を実施し、作業改善を改善したい。原子炉周辺の機器等の状況がまだ把握できていないが、どういったルートで循環型の冷却装置を構築するかが難しい。この方法については様々な方法を検討しているところ。

時期の話は、取りうるオプションの検討を進めているところであり、現時点ではご説明が難しい。

Q. 今回はBWRの発電所における事故だったが、これがABWRだったらどうだったと思うか。原子力系の顧問が出入りしているようだが、誰か。

A. 1Fで起きた地震・津波がABWRで起こったとしても、困難さは同じような状況になるのではないか。

Q. 原子力系の顧問が出入りしているようだが、誰と会っているのか。

A. 顧問については、■顧問や■顧問といった方々より助言をいただいている。

Q. ストロンチウムの検出は

A. 実施時期、場所も含めて検討している。

Q. 瓦礫撤去のJVの契約状況について教えていただきたい。

A. 私契約のため回答を差し控えさせていただく。

Q. アレバ社との契約はどのような物があるのか。

A. 高濃度の水処理等での助言をいただいている。現場に行って液体をサンプリングしてくるようなロボットに関する提言もいただいているが、具体的な内容は協議中。

Q. 国民の税金が投入される可能性もある中で、説明責任を果たしていると思わない。相手先への配慮ということか。

A. 大変申し訳ないが、私契約であるため内容は差し控えさせていただく。

Q. 私契約なので内容を言えないとのことだが、なぜ言えないのか。

A. 私契約のため詳細については差し控えさせていただく。

Q. 2号機の高線量のたまり水の移送をするにあたり、最終的には必ず中に入らなければならないのではないか。作業員の安全管理は大丈夫なのが。

A. 事前に作業計画を作り、適切な被ばくの管理をしてまいりたい。

Q. どのように作業をするのか。

A. 立坑からポンプを入れ、復水器に送ることを考えている。また、T/Bと立坑が繋がっていると想定しており、T/B内の水が減れば線量も減るのでないかと考えている。

Q. 水を抜いた後、どこまで線量が下がると考えているのか。

A. どのような作業環境になるかは現時点未定である。

Q. 今晩中にはRWからの放水終わりそうとのことだが、作業が進展する一つの節目になるのではないか。

A. 高濃度の水がたまっていることが大きな障壁となっているのは事実。今後のスケジュール等の見通しの立てやすさはよくなるのではないか。まずは2号機の処理を考えているが、1, 3号機についても引き続き継続してまいりたい。

Q. 私契約を理由に内容を明かさないというのはおかしいではないか。

A. 私契約に関することなので回答は差し控えさせていただきたい。

Q. 通常であればまだしも、国民の税金が復旧に入るにもかかわらず契約内容を明かさないというのはおかしいのではないか。相手から内容を言わないように言われているのか。

A. 相手様もあることであり、東京電力の判断として回答は差し控えさせていただくこととした。

Q. 塩素38の測定状況は。また、塩素が出た場合、再臨解している可能性があるのではないか。

A. 再評価を行っており、今週中にはお伝えできると思われる。また、再臨界の際には塩素38が出ることはほとんどない。また、中性子線の量などからも再臨界の可能性はないと考えている。

Q. 燃料が溶融している可能性があるが、何分むき出しが続くと溶融するといったようなシミュレーションはないのか。

A. 過酷事故なので、どのようなシミュレーションがあるのか確認させていただきたい。

Q. 石棺するという選択肢はあるかないか。

A. 現時点では東電として Chernobyl のような石棺を造る選択肢はない。

Q. 海水分析について、徐々に下がっているものの、パラメーターの下がりが緩く、他からも漏れていると思われるがどうか。

A. 現時点では他から漏れているという事象は確認されていない。現在、当該放水口部分は流れがなく、潮の満ち引きで徐々に薄まってきたのではないかと考えている。

Q. 2号機のたまり水の線量を計っていないが、運搬する物を事前に計測しないのは、常識的におかしいと思うが。

A. 少なくとも高濃度の放射性物質の高い水であることは認識しており、事前に十分なリークチェックは行ってから実施したい。

Q. 秘契約について、菅首相の決定か、誰の決定か。

A. 秘契約のため回答を差し控えさせていただきたい。

Q. BP社のように作業工程や漏れ状況を世界中に公開しないのか。

A. これまで私どもの方で撮影した資料は公開したい。

Q. 2号ピットからの水漏れについて、想定していなかったのか。

A. 当初漏れた場所は電線管がある場所なので、少なくとも水が入っているとは想定しづらい場所であった。また、水の漏えいを確認した時点で速やかに各種資機材を手配し、実施したものである。

Q. 3人の被ばく者について言えないというのはなぜか。

A. 当社としてはプライバシーの特定に繋がることは回答を差し控えさせていただいている。

Q. 3人が所属する当該企業が公開していても言えないのか。

A. プライバシーの特定に繋がることは回答を差し控えさせていただく。

Q. 重大なことなのになぜ言えないのか。

A. 私どもの方から回答は差し控えさせていただく。

Q. 今後もすべて主契約で言えないのか。

A. 会社名等は回答しているが、契約に関わることは回答を差し控えさせていただく。

Q. 事故隠しとしか思われても仕方がないのではないか。公開については持ち帰って検討いただきたい。

A. 検討させていただく。

Q. 冷却の方法についていくつか検討しているとのことだが、具体的な検討例を教えていただきたい。

A. まずはRHRが使えるか確認したい。配管が使えないといったようなことがあれば、PCV全体を容器として、何らかの方法で水を循環して冷却するという手段もあると考えている。

Q. RHRが使えるかどうかは高線量で確認もできない状況だと思うが、PCV丸ごと水を満たして冷却するとは具体的にどのように実施するのか。

A. 原子炉冷凍化系などの別ループの選択肢などもある。様々なオプションを検討しているところ。

Q. 地震発生以降、非常用復水器が停止したタイミングはいつか。

A. 地震当初は稼働していた模様だが、バッテリー駆動のため、電源装置が故障したことを考えると何らかの時点で故障して使えなくなったことが推定できるが、いつの時点か検証できていない。なお、当機器が稼働していても循環させるための装置なので水位(パラーメータ)への影響はないと思う。

Q. 2, 3号機の高圧注水系は機能したのかどうか。

A. 地震発生以降、パラメーターがある程度までは落ちていたことをみると、ある程度の期間は稼働していたのではないかと想定できるが、いつまで稼働していたかは検証中。

Q. 逃し安全弁の操作の記録について教えていただきたい。

A. 逃し安全弁のスイッチのオンオフをチェックすれば、また、排気管の温度をチェックすればわかつてくると思うが、どこまで中央制御室にデータがのっつっているか、今後、事故について検証してまいりたい。

Q. 逃し安全弁がS/Cに逃したとのことだが、D/Wに出した物と2通りあると思うがどうなっているか。

A. 1号機は2通りあり、2, 3号機はS/Cのみ。

Q. RHRがいつまで動いていたのか。

A. パラメータをみると動いていたと思われる。直流がなくなれば動かなくななる。事故の詳細は検証しているところ。

Q. 官邸の資料によると1日か2日後に停止したとあるが、東京電力として認識していないのか。

A. 当時、どのようなことをNISAに報告したか確認させていただきたい。

Q. ストロンチウムについては実施期間、場所を検討していることだが計らない理由は。

A. ヨウ素138、セシウム137、138といった重要3核種は計測するが、ベータ線なので飛距離としては数メートルであり、ガンマ線を優先して測定いるところ。

Q. 私契約で回答できないのは統合本部での決定か。

A. 当社としての決定。

Q. 統合本部は通しているのか。

A. 従来から私どもとして回答を差し控えている。

Q. 官邸の指示で回答を差し控えているのか。

A. 東電としての判断。

Q. 統合本部には報告していないのか。

A. 事故が起きていることは報告している。

Q. 広報部長の判断で報告しないのか。

A. 一旦、持ち帰らせていただく。

Q. []顧問と[]顧問以外は関わっていないのか。[]顧問は。

A. []顧問については確認させていただく。

Q. 統合本部があっても東電だけで判断していることもあるのか。

A. 事の大小によってどこまで相談するかどうか進めているところ。

Q. 秘契約については統合本部で決めないのか。

A. 秘契約については私どもで判断した。

以 上

2011年4月11日 10時46分

福島支社_支社長付け

No. 8065 P. 2

東京電力(株)

情報共有

4/10 22時～本店レクメモ

H23.4.10③議事メモ.doc 最終印刷日時: 2011/04/11 10:26:00

(件)

プラント状況（本店レク）議事メモ

日時 平成23年4月10日（日）22:00～22:20

場所 本店1F101会議室

対応 原子力設備管理部

広報部

マスコミ 約30人 カメラ4台

配布資料:

なし

質疑応答:

Q. 2号機トレーナーから復水器へのたまり水の移送はいつ開始するのか。

A. 4月11日に開始する予定だが、時間は分からぬ。

Q. R/Wからの海洋放水について、残りは終了したのか。

A. 残り200m³については分からぬ。トータルを確認して公表する予定。

Q. 4月11日に地震後1ヶ月となるが、明日は会社として何かしないのか。

A. 現時点では決まっていない。

Q. KKでの明日の訓練風景の画像データはいつ提供してもらえるのか。

A. 準備が整い次第、提供する。

Q. 2号機トレーナーから復水器への移送はNISAによると慎重なっていると聞いているがどうか。作業はどこまで終わっているのか。

A. 接続部の確認など安全管理を入念に実施している。

仮設ホースの設置は概ね終わっている。

以上